

「スマート林業プロジェクト」の実施状況について

戦略目標

【現状】

2017(H29)

【当面の目標】

2024(R6)

【10年後の目標】

2028(R10)

| | | | | | |
|----------------|---------------------|---|-------------------|---|-------------------|
| ■ 県産材の生産量・消費量 | 37.5万m ³ | ⇒ | 60万m ³ | ⇒ | 70万m ³ |
| ■ 新規林業就業者数(累計) | 352人 | ⇒ | 546人 | ⇒ | 800人 |

スマート林業プロジェクトの主な行動目標と実績

| 区分 | 指標 | 単位 | 実績 | | 目標 |
|----|-----------------|-----------------|-------|-------|-------|
| | | | R1 | R2 | R4 |
| 川上 | 県産材の生産量 | 万m ³ | 42.0 | 37.2 | 56.3 |
| | コンテナ苗木の植栽面積 | % | 114 | 190 | 200 |
| | 林内路網開設延長(累計) | km | 7,898 | 8,047 | 8,310 |
| | 主伐生産システム導入数(累計) | セット | 4 | 4 | 7 |
| | 新規林業就業者数(累計) | 人 | 419 | 450 | 486 |
| | 林業アカデミー修了者数(累計) | 人 | 52 | 64 | 100 |
| | 意欲と能力のある経営者数 | 経営体 | 13 | 18 | 25 |
| 川中 | 人工乾燥材出荷割合 | % | 45 | 49 | 48 |
| 川下 | 県内の県産材消費量 | 万m ³ | 16.7 | 14.6 | 18.3 |
| | 新たな木育拠点の開設 | — | — | 整備 | 開設 |
| | 県産材海外輸出額 | 億円 | 1.05 | 3.38 | 1.70 |

森林サイクルの確立に向けた取り組み

伐って⇒使って⇒植えて⇒育てる



■高性能林業機械導入支援



■苗木の生産供給対策

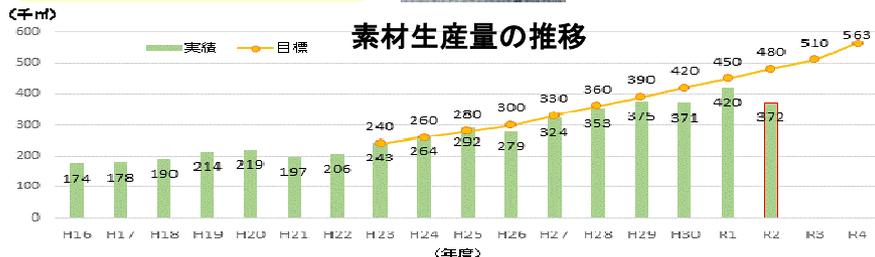
- ・採種園の整備
- ・コンテナ苗生産

■獣害対策

- ・鳥獣害防止施設整備

R2森林整備の状況

- ・造林 204ha
- ・間伐 2,050ha
- ・更新伐 63ha



県産材の安定供給に向けた取り組み

滞留原木からウッドショックへ、木材需給はめまぐるしく変化

滞留原木対策会議の開催、
原木安定供給協議会の設置

- ・滞留原木解消・販路開拓
- ・原木の需給の情報共有
- ・サプライチェーン構築検討等

「スマート林業」導入支援

- ・ICT機器導入

県産材安定供給対策

- ・高性能林業機械、資材
運搬用ドローン等導入



即戦力となる人材育成・新規事業体支援

■とくしま林業アカデミー

- ・平成28年度開講以来、5期生まで64名が林業に就業
- ・令和3年度は最大となる19名が研修中



| | 1期生 (H28) | 2期生 (H29) | 3期生 (H30) | 4期生 (R1) | 5期生 (R2) | 6期生 (R3) | 計 |
|------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------------|-------------|----|
| 研修生数 | 11 | 13 | 13 | 15 | 12 | 19 | 83 |

■林業事業体

- ・研修会の開催、林業機械の導入などを支援
- ・令和3年度は起業等による林業参入が相次ぐ(5事業体)

| 登録林業事業体 | 認定林業事業体 | クール林業経営体 |
|---------|---------|----------|
| 39 | 29 | 18 |

林業従事者の技術力アップ・労働安全対策

- ・習熟度に応じたスキルアップ研修(リカレント教育)の実施
- ・ハーベスタシミュレーター、VRを活用した技術研修
- ・LPWA導入に向けた現地実証

| リカレント教育 | R1 | R2 |
|------------------------|----|----|
| スペシャリスト (主伐技術者) | 25 | 23 |
| プロフェッショナル (搬出間伐の班長) | 13 | 7 |
| ポーター (丸太の運び屋) | 15 | 9 |
| アクティブシニア (シニア植林隊) | 14 | 10 |
| 計 | 67 | 49 |

スペシャリス
トの育成VRを活用
した労働安
全研修LPWA
実証試験

県産材の「まるごと利用」加工体制の充実

A材(製材・プレカット)

B材(合板)

C材(MDF)

D材(バイオマス燃料)

+ 大径材利用に向けた取組み

加工体制

大径材利用に向けた効率的な加工施設の整備



開発・実装

スギ大径材を活用した強度性能に優れた横架材の開発



→年々充実する森林資源への対応

県産材回帰に向けたウッドショック対策

R3初旬より、コロナ禍におけるアメリカの住宅ブーム、早期に経済が回復した中国での木材需要、コンテナ不足に起因し、世界的に木材需給が逼迫

建築分野における県産材需要の高まり→**県産材回帰へ**

- ◆ プレカットに対応できる構造材の増産に向けた製材工場への人工乾燥機の導入支援
- ◆ 乾燥スケジュール短縮に向けた技術研修
- ◆ 使いやすい県産材に向けた普及啓発チラシの作成

県産材の利用拡大

県内

アーカイブ化

- 木造建築を学ぶ「もっけんフォーラム」毎月開催
- 建築関係者による「伐採現場体験ツアー」
- 「徳島すぎ家づくり協力店」によるモデル住宅PR
- 「徳島木のおもちゃ美術館」等の整備
- 東京オリパラ「選手村ビレッジプラザ」
- の後利用検討(23m³)→R4製作・配置



くつろぎ館



ビレッジプラザ

新型コロナウイルスの影響と今後の展開

オンラインとリアルハイブリッド

県外

- 大消費地での展示商談会モクコレ参加(R4.2月)
- 企業・自治体と連携したブース(東京・大阪)での販売促進活動(R4.1月～予定)

海外

- ビジネスマッチング
- オンライン勉強会
- 県産材輸出へ向けた協議

